

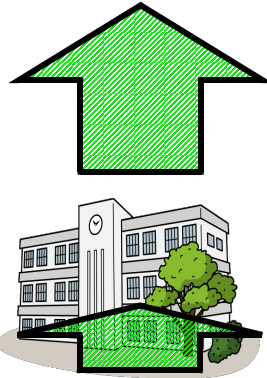
# 令和4年度 福住小中学校グランドデザイン

## 学校教育目標

一人ひとりが元気でいきいきと輝く子ども  
～地域と創る持続可能な社会の実現に向けて～

### 【目指す福住っこ像】

世界に目を向ける  
自立する  
共に生きる



### 【特色ある教育】

外国語教育  
ICT教育  
話す・書く  
福住学

学校運営協議会

市教育委員会

## 幼児期の教育とのスムーズな接続

### 【確かな学力】

基礎・基本を身につけ、他と関わり合いながら学びを追究し、自ら学ぶ意欲をもつことができる子ども

#### 知育

【自立期 G7～G9】  
自ら学ぶ態度と他と関わる中で課題を追求する能力の育成

【移行期 G4～G6】  
身につけた力の活用と論理的な思考の育成

【習得期 G1～G3】  
学習規律の定着と基礎的・基本的事項の習熟

### 【豊かな心】

基本的な生活習慣を身につけ自己肯定感をもち、他者を思いやることができる子ども

#### 徳育

【自立期 G7～G9】  
下級生の模範となる高い意識で実践する能力の育成

【移行期 G4～G6】  
自ら考え判断し行動する能力の育成

【習得期 G1～G3】  
自他の尊重と規範意識の育成

### 【健やかな体】

健康で安全な生活を送るための基礎を身につけ、心身共に自分の健康を実感できる子ども

#### 体育

【自立期 G7～G9】  
自らの課題を自覚し改善する能力の育成

【移行期 G4～G6】  
望ましい運動習慣と生活習慣の確立

【習得期 G1～G3】  
基本的な生活習慣の定着と運動への意識向上

# 本年度の重点目標

# 「対話」

## 研究主題

### 【 目標とすべき子ども像 】

#### 《 オーナーシップをもつ子 》

- ◎ 気づける子
- ◎ 自分で決断できる子
- ◎ ゴールを決めて始める子

### 【 目標とすべき学校像 】

#### 《 明日も行きたくなる学校 》

- ◎ 地域の拠点となる学校
- ◎ 対話・遊び・学習・行事の充実
- ◎ 異年齢活動

### 【 目標とすべき教師像 】

#### 《 プロの教師 》

- ◎ 同じゴールへ協働できる教師
- ◎ 子どもの声に耳を傾ける教師
- ◎ 学び続ける教師

## 【 3つの目指す福住っこ 】

- 1、「世界に目を向ける」・・・社会の一員であることを実感し、世界で起きていることに責任を持って関わっていこうとする子どもたちの育成を目指す。そのために、現実にある「ホンモノ」に触れる体験を大事した教育に努める。
- 2、「自立する」・・・「何のためにするのか(学ぶのか)」を考えて行動し、自分の行動(学び)に対するオーナーシップの育成を目指す。そのために、自分で考えて、自分で決めることのできる子どもの育成に努める。
- 3、「共に生きる」・・・人は多様な存在であり、その多様な人たちが共に生きるためにはどうしたらいいのかを考えようとする子どもの育成を目指す。そのために、福住校区の自然と共存し、異年齢活動や地域の方との交流に努める。

## 【 4つの特色ある教育 】

### 《 英語 》

毎日、できる限り英語に触れる環境を作り出し、世界とのコミュニケーションツールとしての英語力を目指す。授業では、教科書に加え、「Jollyphonics」「まなビューア」による日々の学習を行うほか、「OST授業、English for skills、GTEC、英検」などの取り組みにより、最終ゴールの「中学卒業時に英検準2級取得」を目指す。

### 《 話す・書く 》

「話す・書く」をすべての教育活動に落とし込み、アウトプットの力を育成する。具体的には、「学級」では、朝(帰り)の時間や学活によるサークル対話や3分スピーチなどの継続した取り組みを学級経営案に、「教科」では、プレゼンの機会、定期的な作文応募、英語スピーチコンテスト等を年間計画に落とし込んで行う。また、「私の主張発表会」や「学習発表会」の行事に向けて、学校全体で取り組んでいく。最終ゴールとしては、「少年の主張」奈良県大会での原稿審査を通過し、最優秀賞を目指す。

### 《 ICT教育 》

小学部(G1～G6)に「情報の時間」を創設し、中学部の技術科と連携し、タブレットやアプリの使いから、WeDo2.0によるプログラミング学習やCADを用いた3Dプリンター使用まで、情報スキルとリテラシーを計画的に学び、使いこなせることを目指す。

- ◎ 3Dプリンタの活用

## 《 福住学 》

小学部では、「福住を知る」ことに主眼を置き、地域の方と関わりをもち、福住の自然、歴史、文化に触れ、「福住のすてきを見つける力」を育てていく。中学部では、小学部で培った力を元に「福住のすてきを発見・発信する」ことに主眼を置き、地域の一員として「福住のすてき」を最大限に活かすために行動できる力を育てていく。そのために、福住村プロジェクト（教育連携プロジェクト）と密接に連携し、市・地域とともに学習を推進していく。

## 【 知・徳・体 】

### 《 確かな学力 》

それぞれの発達段階によって「何のために学ぶのか」を考えさせ、子どもたちが「やらなければならないもの」「自分で選択してやっていくもの」をオーナーシップをもって決めていけるよう支援する。「学び合い」や「ペア学習」「イエナプラン」の考え方を取り入れ、個別の最適化に向けて「グーグルワークスペース」をはじめ、「未来シード」「ロイロノート」「クラスルーム」「English for Skills」などのICT環境を整備し、それらの機器を活用できる力を育成する。また、ESDカレンダーによる各教科の内容の可視化をカリキュラムマネジメントに活かすよう努めていく。

### 《 豊かな心 》

教育には、「不易と流行」という二つの側面があり、不易の教育として、次の三つを核に、豊かな心を持った人間形成を育てていく。

1、「時を守る」・・・常にチャイム着席を心がけ8:30に全校一斉に「起立」という声が聞こえてくる学校を目指します。小学部と中学部と違った時程で、時が流れているため、お互いを尊重しながら、ノーチャイムで動けるタイムマネジメントができる子どもを育成する。

2、「場を清める」・・・基本的に清掃時間がないので、いつも身の回りの整理整頓に気を配ることができる子どもを育成していく。廊下のゴミ、トイレのスリッパ、自分の机やロッカー、黒板の粉など、自分たちの生活している場所すべてに気を配り、「気づく」力を育成し、どうしてい行くべきか行動する子どもを育成する。

3、「礼を正す」・・・「あ：いての目を見て い：つも元気で さ：きに つ：たえよう」のように、友達・教職員・地域の方と、元気に挨拶できる子ども、TPOに合わせた言葉遣いができる子どもを育成する。

### 《 健やかな体 》

小学部も体育専科とイエナプランの考え方を取り入れ、基本的に複数の学年で授業を構成し、多様な仲間の中で、健やかな体を育てていく。また、保健主事・学級担任・体育専科・養護教諭・栄養教諭が連携し、専門性を活かした質の高い健康授業の展開にも努めていく。また、天理大学とコラボレーションして教師志望の大学生も授業に参加してもらい、授業作り支援、行事のコラボ、民俗学的視点からの授業コラボ、プール清掃など、北澤先生の指導を仰いでいく。